

中学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

社	会
---	---

東京都教職員研修センター

目 次

研究主題及び主題設定の理由.....	1
全体の研究構想図.....	2
地理的分野の研究内容	
1 地理的分野研究副主題及び副主題設定の理由.....	3
(1) 研究のねらいと研究の仮説	
(2) 研究の題材	
(3) 研究を進める上での指導上の工夫	
2 検証授業.....	4
(1) 単元名	
(2) 東京都を学習するにあたって	
(3) 単元の目標.....	5
(4) 指導計画.....	6
(5) 本時の目標.....	7
(6) 本時の展開	
(7) 授業の考察.....	8
3 地理的分野の研究のまとめと今後の課題.....	11
(1) 研究のまとめ	
(2) 今後の課題.....	12
歴史的分野の研究内容	
1 歴史的分野研究副主題及び副主題設定の理由.....	13
(1) 研究のねらい	
(2) 研究の仮説	
2 検証授業.....	15
(1) 単元名	
(2) 小単元	
(3) 本単元のねらい	
(4) 目標	
(5) 指導計画	
(6) 指導内容	
(7) 授業の考察.....	18
3 指導例.....	21
(1) 単元名	
(2) 小単元	
(3) 目標	
(4) 本単元に関する考察	
(5) 指導計画	
(6) (5) の指導内容	
(7) (5) の指導内容	22
(8) (5) 及び(5) の評価規準	
4 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題.....	23
(1) 研究のまとめ	
(2) 今後の課題	
研究のまとめ.....	24

研究主題及び主題設定の理由

研究主題

資料活用を重視した学習を通して、確かな学力をはぐくむ指導の工夫

平成8年7月の中央教育審議会第一次答申に始まり、[ゆとり]の中で自ら学び自ら考える力などの[生きる力]の育成を基本とする提言がなされて以降、様々な教育改革が行われてきた。大きく変化していく社会に対して、これらの課題に適切に対応していく教育が求められるなかで学習指導要領が改訂された。

社会科は、「国際社会に主体的に生きる日本人としての資質や能力を広い視野に立った社会認識を通して育成」することを目指している。変化の激しい時代にあって、常に社会の変化に関心を持ち、変化する社会をとらえる事実認識を繰り返し行っていくことが肝要と考える。そこで、社会の変化の軌跡をとらえる基礎的知識や現代社会のしくみ、制度に関する基本的な考え方を身に付けるとともに、事実認識の方法を身に付けることが重要となってくる。

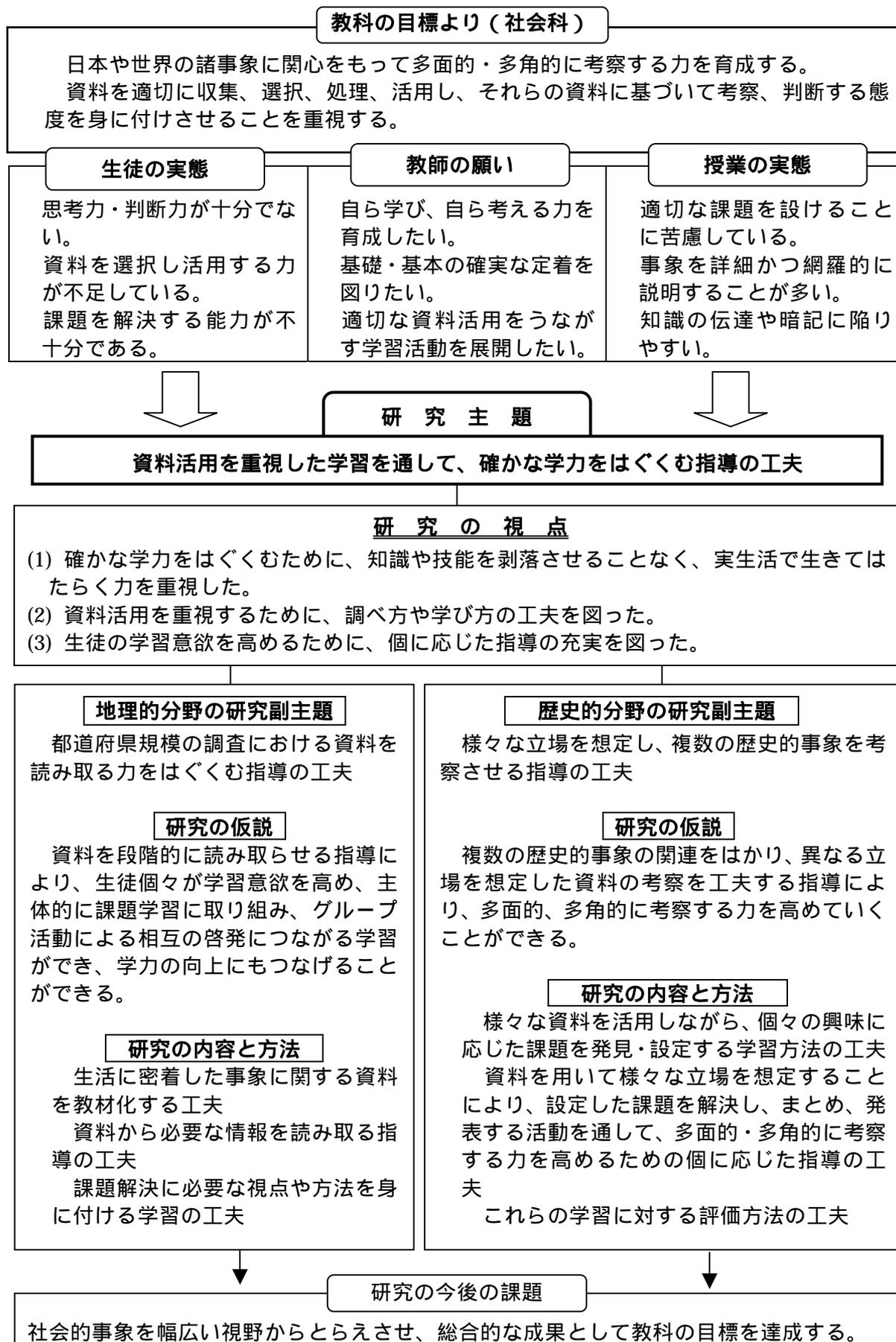
中学校学習指導要領解説社会編では、社会科で身に付けさせることとして、「各分野の特質を生かして調べ方や学び方、見方や考え方を学ぶことができるようにするとともに、全体を通して公正さに留意して、多面的・多角的な思考・判断ができるような学び方を身に付けることができるよう工夫改善している。」と説明している。このことから、授業で事実認識の方法を身に付けさせるために、課題を追究・考察する学習を展開し、学習の過程において調べ方や学び方、見方や考え方を学ばせることが重要である。そして、社会科の特質を生かした学び方を身に付けさせ、「多面的・多角的に考察し公正に判断する」学習を進めなければならない。

また、学ぶ意欲を高め、[生きる力]を知の側面からとらえた[確かな学力]を育成することも大切な点に挙げられる。教師の側からもわかる授業を行い、生徒の学習意欲を高める指導方法や指導体制の工夫改善を行い、「個に応じた指導」の充実を図ることが求められている。

以上のことを踏まえ、本研究部会は学習指導要領の目標を読み直し、[生きる力]や[公民的資質]の育成に必要な能力や学習形態について考察した。特に着目したのは、「諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し」の部分である。社会的現象はとらえる視点によって見え方が変化し、答えが一つとは限らなくなる。公正な判断力を培う上でも資料の活用による授業改善が必要であると考えた。

そこで、今年度は、「資料活用を重視した学習を通して、確かな学力をはぐくむ指導の工夫」を研究主題とし、資料を活用し、読み取る学習活動を中心とした作業的な学習の充実を図った。これからの情報化社会においては、適切な資料を活用していく能力が求められる。多面的・多角的な思考とともに、主題に位置付けて資料を活用する授業を展開することにした。各分野においては課題学習やグループ作業を取り入れ、資料の収集、選択、処理、活用に関する能力の育成を目指し、確かな学力を付けさせることを目標にした。また、その段階ごとに「個に応じた指導」を取り入れ、学習の促進を図っていくこととした。

全体の研究構想図



地理的分野の研究内容

1 地理的分野の研究副主題及び副主題設定の理由

地理的分野の研究副主題

都道府県規模の調査における資料を読み取る力をはぐくむ指導の工夫

(1) 研究のねらいと研究の仮説

平成 15 年度に学習指導要領の一部が改訂された。その中で、個に応じた指導の一層の充実が示され、そのための例示として生徒の興味・関心等に応じた課題学習が挙げられた。これを受けて、生徒が興味・関心を抱き、考察を深める学習がいかによれば可能となるか考えた。

中学校学習指導要領第 2 節社会〔地理的分野〕(以下学習指導要領<地理>と記す)の目標(1)の「地理的見方や考え方の基礎を培う」、(2)の「地域的特色をとらえるために視点や方法を身に付けさせる」、(4)の「様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力を育てる」に着目し、1つの資料だけでなく、様々な資料を引用し活用することで、多面的・多角的な見方や考え方ははぐくむことができるであろうと考えた。特に、二種類以上の資料を関連付けて読み取る技能を身に付けさせることの重要性については、平成 13 年度に国立教育政策研究所が実施した「教育課程実施状況調査」の考察からも指摘されている。

そこで、「資料を段階的に読み取らせる指導により、生徒個々が学習意欲を高め、主体的に課題学習に取り組み、グループ活動による相互の啓発につながる学習ができ、学力の向上にもつなげることができる。」を仮説とし、研究を進めることとした。

(2) 研究の題材

仮説を検証する上で、「内容(2)イ 都道府県」を取り上げ、調査に必要な東京都の資料を読み取ることとした。東京都を題材として選定した理由は、学習指導要領<地理>にある学校所在地の都道府県を扱うことのほかに次の3点である。

第一に、直前の単元である「身近な地域」で学習した地域の調べ方や学び方を活用・応用して、地域的特色をとらえさせることができる。第二に、日本国内の統計資料は多くが都道府県を基礎単位として作成されており、生徒自らが入手することは比較的容易である。第三に、生徒は小学校の学習で既に東京都の地域的特色にせまる学習(第3学年もしくは第4学年)に取り組んでおり、その経験から得た知識を活用・応用できることである。

東京都の学習では、東京都水道局作成の上水道に関する統計資料と東京都の地図を生徒に示した。二種類の資料を見て、まず生徒個々に資料の読み取りを行わせ、さらにグループごとに読み取った項目を分類させ、東京都の地域的特色を発見する手がかりを得させた。個人の活動とグループでの相互の啓発を生かした学び合いにより、「人口の集中と水道供給との関係」、「地形」、「産業の活発な地域や盛んな産業」を見いだせると考えた。

以上のように、資料を活用することによって東京都の地域的特色を生徒自らとらえることができるようにする方法を重視して、本研究を行った。

(3) 研究を進める上での指導上の工夫

本分科会では、生徒一人一人の能力を伸ばすための指導について、特別な方法や学習形態ではなく、通常の授業の中での実践の可能性を模索した。生徒一人一人の能力を伸ばすための指

導とは、「個に応じた指導」をどのように展開するかが問題である。そこで「画一的と考える指導」と対比させ、「個に応じた指導」について考え、次の表にまとめた。

【画一的と考える指導】	【個に応じた指導への工夫】
教師が一方的に講義する	生徒の主体的な活動を取り入れる … 作業的な学習
生徒の反応を見ていない	生徒の反応を指導に生かす …… …… かかわりや形成的評価の工夫
一面的な反応を強要する	多様な反応を許容する …… …… 様々な反応を予測・許容
生徒が受身になっている	見通しをもって主体的に取り組む … 課題の把握

検証授業では、第一に生徒の主体的な活動を授業の中で展開することに配慮し、十分時間をかけて資料の読み取りを行い作業的な学習を中心に授業を組み立てた。第二に読み取りのできた生徒から教師の点検を受けるようにし、その中で一人一人の学習進度を確認し助言・指導することを心がけた。第三に、資料の読み取りを指示する際に、「わかったこと」「気がついたこと」「思ったこと」の三点を意識させた。そして教師の点検を受けに来た生徒に自分が読み取ったものから一つを選ばせて板書させることにより、読み取りが進まない生徒に何をどのように読み取ればよいのかを気付かせる指導を心がけた。第四に具体的な目標を提示し達成することにその進度がはっきりと分かる印としてシールをノートに貼らせた。第五に東京都に関する基本事項を、地図帳を使用して確認することとした。

2 検証授業

(1) 単元名「地域の規模に応じた調査～東京都」を例にして《(2)地域の規模に応じた調査》

「内容(2) ア 身近な地域」の学習では次のような特徴がある。観察やフィールドワークなど作業的・体験的な活動によって地理情報を直接収集したり、調べたことを適宜検証して市町村規模の地域的特色をとらえたりすることができる。この規模における「地理的な視点や方法」として、フィールドワークを中心とした調査の方法の基礎を学ぶことができる。

しかし「イ 都道府県」の学習では、「ア 身近な地域」で学習した方法ではおのずと限界があり、地域的特色を明らかにする資料も、観察やフィールドワークから地図や統計資料、インターネット等の資料が中心となる。そのなかでも、今回、東京都の学習において、特に重視したのが統計資料による地理情報である。

地理情報とは、地理的事象が読み取れたり、地域的特色に結び付く事象を見いだしたりできる資料のことである。これらを多面的、多角的に考察するということは、中学校学習指導要領解説社会編に述べられている「地理情報の活用に関する技能」及び「地図の活用に関する技能を活用できるようになること」である。今回はこの中でも「c テレビや新聞など、特に地理情報として提供されたものでない情報を、どのように加工、処理すれば地理情報として活用が可能となるか、情報の地理情報化の視点や方法を身に付けること」と「d 地理情報を使って地域的特色をどう説明、紹介するか、地理情報の処理や表現に関する技能を身に付けさせること」を図った。

(2) 東京都を学習するにあたって

資料活用能力

本単元における資料活用能力を活用していく段階を次のように考えた。

- 1 地図や統計資料から数多くの事実を発見する。
- 2 発見した事実から地域的特色を明らかにする情報を収集し、選択する。
- 3 収集し、選択した情報から仮説を設定し、検証する。

資料活用する能力の第一は、その資料が何を示すことを目的に作られ、資料としてまとめられているのかを見出すことである。それを踏まえて、資料から多くの事実を読み取ることを行った。しかし、統計資料の読み取りの中には、数値の意味するところが分からなかったり、分かったと思ったことに憶測が含まれたりすることがある。そこで第二に、グループで協議し、読み取りから事実を集め、いくつかの項目に分類する作業を行い、地域的特色を明らかにする事実だけを抽出させた。第三に、その中から地理的事象に着目し、検証した。

東京都の地域的特色を明らかにする統計資料の選択

仮説に基づいて資料の読み取りを行う場合、重要になるのが地域的特色を明らかにする資料の準備である。都道府県単位の統計資料で生徒が一番に発見し、東京都の地域的特色として考えるのが人口についてである。東京都は日本一の人口を擁し、政治や経済、産業の中心として機能している。人口の集中とそれにかかわる産業は、他の道府県と比較して明らかに東京都の地域的特色の一つとして考えることができる。

一方、東京都内においても区部とそれ以外の地域とでは明らかに地方的特殊性が見られ、区部においても都心部と23区周辺部とでは明らかに違いが見えてくる。このような違いが明らかとなり、追究課題の設定を可能とする資料として選択したのが、東京都水道局上水道に関する統計資料である。

東京都の水道に注目した理由

本分科会が東京都の水道に注目した理由は次のとおりである。

小学校学習指導要領社会科の第3学年および第4学年では、「飲料水、電気、ガス」の中から選択し、地域の人々の健康な生活の維持と向上を、見学や調査を通して考えるよう定めている。特に、飲料水は児童にとって具体的なものであり、取り上げられる場合が多い。また、東京都の飲料水等の上水道は、一部地域を除き、東京都水道局で管理・運営され、都全体の統計資料が作成されている。

さらに、東京都の水資源確保のために周辺県にダムや水路を建設するなど、他県との関係で東京都全体をとらえることも可能である。そこで、小学校での既得知識を踏まえ、水道に注目することにより、東京都の自然環境、人口、産業など、地域的特色をとらえるのに必要な視点を通して都道府県規模の調査を学ぶ学習に適していると考えた。ただし、東京都水道局の上水道に関する資料には詳細かつ多量のデータが掲載されているため、本学習に必要な項目を選び、さらに平易な言葉に置き換えるなど加工して生徒に提示することとした。

(3) 単元の目標

学校所在地である東京都を取り上げ、都道府県規模の地域的特色をとらえるための視点と方法を身につける。

東京都が公表する統計年鑑を活用し、東京都の地域的特色をとらえさせる。

都道府県規模の資料を活用する能力を育てる。

(4) 指導計画

時限	学習目標・内容	学習活動	学習の評価	教師の指導・留意点
1 }	【学習過程1】 地図や都道府県別統計資料を使って、東京都の位置や人口、面積など基本的な事項を確認する。			
	<p>地図帳を使って、東京都の位置を確認する。</p> <p>地図帳にある都道府県別統計資料を使って、都庁所在地、人口、面積等を調べ、基本事項を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を使って東京都をさがし、白地図に着色する。(地図帳) ・人口や面積などをワークシートに記入する。(都道府県別統計資料) 	<p>【関心】地図帳や統計資料から必要な情報を読み取ろうとしている。</p> <p>【資料】地図帳や統計資料から必要となる情報を引き出している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を使って東京都の位置を確認するとともに東京都の範囲に気付かせる。 ・都道府県別統計資料から東京都が上位を占めるものに気付かせる。
3 }	【学習過程2】 東京都水道局の上水道に関する統計資料から、東京都の地域的特色につながる事実を抽出しよう。 本時(1/2)			
	<p>東京都水道局資料と都内区市町村地図を使って、東京都の地域的特色につながる事実を発見させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの資料から、できるだけ多くの事実を読み取り、ノートに箇条書きにし、教師の点検を受ける。(東京都水道局上水道に関する統計資料、都内区市町村別地図) 	<p>【関心】資料から数多くの事実を読み取ろうとしている。</p> <p>【資料】資料から数多くの事実を読み取っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかったこと、気付いたこと、思ったこと」を自由に記述させ、数多くの事実を読み取らせる。
4	<p>東京都の地域的特色の発見につながる事実を、項目分類表を使って分類させる。</p> <p>班単位で作成した読み取りカードをつかって学級全体で整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の読み取りを班内で発表し、項目分類表を使い記入する。 ・項目分類表に記入したものを班ごとに分析し、読み取りカードに記入する。 ・班ごとに読み取りカードを項目ごとに並べ、学級全体でカードの整理をする。 	<p>【資料】項目分類表を用いて読み取った事実を分類している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班単位で分類作業をさせ個人では読み取ることができなかった事実に気付かせる。 ・学級全体に作業を通して整理し多くの事実に気付かせる。
5 }	【学習過程3】 課題を設定し、仮説を立ててみよう。			
	<p>資料の読み取りから得た情報から、東京都の地域的特色につながる内容を選択し、仮説を立てる。</p> <p>仮説を検証するための方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級単位でまとめた分類表を基にノートに仮説を書く。 ・仮説を検証するのに適切な方法を考える。 	<p>【資料】東京都の地域的特色を明らかにする課題を考え、仮説を設定している。</p> <p>【思考】設定した仮説を検証するための見通しを考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、読み取りで使用した資料と学級単位の分類表を使って東京都の地域的特色につながる仮説を設定できるように配慮する。

【学習過程4】 仮説を検証し、まとめてみよう。			
7 }	設定した仮説を検証するための資料を選択し、必要な情報を収集する。水道資料からわかった東京都の特色をまとめ発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 何を明らかにすることが必要なかを踏まえ、各種統計資料から必要な情報を収集し検証する。 ノートに東京都の特色をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考】様々な資料から適宜選択し、比較・関連させ仮説を検証するための学習を進めている。 【資料】水道資料から東京都の地域的特色を明らかにしている。 【知識】東京都の地域的特色を理解している。
8	新たな課題を考察する。		<ul style="list-style-type: none"> 検証した結果を、地図やグラフを入れてまとめさせる。 仮説が違っていた時は、その理由を考えさせる。また、必要に応じ修正させる。

【単元の評価規準】

様々な地理的事象を資料から見いだそうとしている。【関心・意欲・態度】

読み取った資料を地域的な特色と結び付けるように分類し再構成している。【思考・判断】

読み取り、分類・抽出した資料について検証した結果を、地図やグラフなどに表現している。【資料活用の技能・表現】

調査を通して、東京都の地域的特色を理解し、都道府県規模の調査の視点と方法を身に付けている。【知識・理解】

(5) 本時の目標

統計資料と地図から、数多くの情報を正しく読み取る。

統計資料の内容や項目を確認するなど資料の読み取りに必要な基本的な態度を身に付ける。

(6) 本時の展開 (3 / 8 時間)

	学習内容	学習活動	評価規準 (評価の観点)	教師の支援・留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の確認と本時の説明 都道府県単位の統計資料(地図帳にある統計資料)からわかった日本一の項目を確認する。 本時の学習を通して学習する内容に見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳にある統計資料を参考にしてノートに記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> 東京都の地域的特色を考える目安となるようにする。 早くできた生徒は板書させ生徒全員に東京都について基本的な内容を確認させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料の説明 都水道局の資料を配布し、統計資料の題、項目、出典、作成年を確認する。 都内区市町村別地図の概要を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2つの資料から、「わかったこと」「気が付いたこと」「思ったこと」の三点をノートに番号をつけて箇条書きさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心】2つの資料から、3つ箇条書きができ、教師の点検を受け、確認しようとしている。(ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> 使用する資料について、題や項目、出典、作成年を確認することにより、資料の主題や内容を理解させることに留意する。 数多くの読み取りをさせることを第一とし、目標とする個数を明示する。

展 開	資料の読み取り ・都水道局の資料と地図から数多くの情報を読み取る。	・3つ書けた生徒から教師のところに持ってくるように指示し読み取った内容を板書させる。		<ul style="list-style-type: none"> ・「わかったこと」「気が付いたこと」「思ったこと」と指示し、読み取りができる環境作りをする。 ・生徒により作業の進度が異なる。板書させることにより、読み取りが進まない生徒の参考にさせる。 ・個数を達成するごとにノートにシールを貼って自分の進度を確認させる。
	<p>【予想される生徒の反応】</p> <p>統計から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度により使用量が異なる ・地域により使用量が異なる ・給水人口が多い区とそうでない区がある ・一人当たり水使用量の差が大きい <p>など</p> <p>地図から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西の方は面積の大きな市や町がある ・島の数が多い ・市部の東側は小さい市が多い <p>など</p> <p>統計と地図の関連から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心に給水人口の多いところがある ・都心に水使用量の多いところがある ・統計に出てきていない市がある <p>など</p>			
ま と め	読み取りの内容を確認する。		【資料】数多くの事実を読み取っている。(ノート)	

(7) 授業の考察

本単元では、資料活用能力の第一として数多くの事実を発見することにより、第二に地域的特色を明らかにする情報を収集し選択できる能力を高めることを検証することをねらいとした。

本時の授業は、資料活用能力の前提である数多くの事実の発見を重視し、事実の発見つまり資料からたくさんの情報を読み取ることをねらいとして設定した。以下、その後の授業展開も含めて検証することにする。

資料的的確性 - 数多くの事実を発見できたか -

検証授業では、平均すると5から8個の読み取りができ、最高15個の読み取りをした生徒がいた。東京都水道局の上水道に関する資料は、そのままでは読み取りが困難なためあらかじめ内容を整理して資料として提示した。数字だけが並んでいる資料を読み取ることは中学1年生にとって初めての経験である。しかし、数字の資料は「多い、少ない」とか「項目に何がある」という単純なことから新たな事実を見つけることもある。数字や項目が意味するものはなにかを思考・判断することにより、これまで見えてこなかったそれらの裏側にある事実を発見することにつながる。このような視点から学習計画を組み直すことも必要である。

検証授業では、はじめ資料の読み取りに苦労する様子が続き、数多くの読み取りは困難で

はないかと思われたが、生徒自身に読み取った内容を板書させ、時間をかけて取り組ませるなどの指導を行うことにより、どの生徒も要領をつかみ、資料から多くのことを読み取ることができた。

授業の工夫 - 生徒一人一人の意欲を喚起することができたか - 一人一人に時間をかけて指導するには、工夫が求められる。本時における指導では、いくつかのことを同時に進行させることで、個に応じた指導を通常の授業の中で充実させることができた。

同時に進行された内容は、生徒が資料の読み取りを続けている、生徒の様子を教師が机間指導により把握する、

机間指導する教師にノートの点検を受けに行く、点検を受けた生徒が黒板に自分の意見を書く、友達の意見を参考に自分の意見を加えていく、といった活動である。これだけの活動を同時に進行できたのは、生徒に考えさせ、追究し続けさせることのできる資料の提示と、生徒が読み取ったことをその場で評価し、支援する教師のはたきによる。

検証授業以降の授業でも班やグループ、学級全体を学びの場として位置付け、一人一人の読み取りの成果を他の生徒に還元することにより、学び合いという集団学習のメリットを生かし、生徒自身が気付き、学びを確かなものにしていくことができた。

授業終了後、無作為に抽出した3人の生徒のノートを見ると、他の生徒の読み取りから数多くのことを読み取ろうとしている形跡がうかがえた。このことから、効果的な指導を継続して行っていくことにより、更なる伸長が可能になると考える。

東京都水道局上水道の水使用量(平成10年～14年度)

年度及び地域	総数		給水人口 人	普及率 (%)	1人あたりの水使用量 m ³ /人
	契約件数 件	水使用量 m ³ (立方メートル)			
平成10年度 1998	5,647,861	1,477,421,000	11,187,290	100.0	132
平成11年度 1999	5,734,760	1,480,603,000	11,269,208	100.0	131
平成12年度 2000	5,943,938	1,502,780,000	11,570,762	100.0	130
平成13年度 2001	6,049,778	1,495,203,000	11,676,650	100.0	128
平成14年度 2002	6,221,962	1,510,464,001	11,953,478	100.0	126
区 部	4,574,238	1,109,864,001	8,292,119	100.0	134
1 千代田区	35,355	35,657,000	37,438	100.0	952
2 中央区	66,157	33,987,000	81,535	100.0	417
3 港区	130,798	56,196,001	166,609	100.0	337
4 新宿区	200,020	59,676,000	294,844	100.0	202
5 文京区	111,051	27,342,000	179,816	100.0	152
6 台東区	98,217	28,863,001	161,961	100.0	178
7 墨田区	120,272	28,445,001	220,693	100.0	129
8 江東区	200,762	50,120,001	396,417	100.0	126
9 品川区	192,416	46,305,001	331,329	100.0	140
10 目黒区	149,427	33,033,001	254,718	100.0	130
11 大田区	343,249	81,473,001	659,267	100.0	124
12 世田谷区	456,050	93,054,001	825,639	100.0	113
13 渋谷区	150,756	43,068,001	200,492	100.0	215
14 中野区	187,225	33,955,000	312,020	100.0	109
15 杉並区	301,095	56,500,001	528,015	100.0	107
16 豊島区	163,028	38,863,001	251,535	100.0	155
17 北区	175,437	35,950,001	325,967	100.0	110
18 荒川区	94,493	20,963,000	185,555	100.0	113
19 板橋区	274,708	57,259,000	523,504	100.0	109
20 練馬区	319,766	67,340,001	672,469	100.0	100
21 足立区	297,240	67,143,000	620,828	100.0	108
22 葛飾区	204,892	46,755,000	425,690	100.0	110
23 江戸川区	301,824	67,907,001	635,778	100.0	107
市 郡 部	1,647,724	400,600,000	3,661,359	100.0	109
1 八王子市	201,006	52,064,000	465,796	99.9	112
2 立川市	80,926	20,818,000	167,237	100.0	124
3 三鷹市	89,266	18,823,000	175,091	100.0	108
4 青梅市	56,771	15,432,000	141,666	99.9	109
5 府中市	109,534	26,470,000	234,294	100.0	113
6 調布市	105,014	22,767,000	209,259	100.0	109
7 町田市	165,227	42,634,000	396,370	100.0	108
8 小金井市	56,539	12,052,000	113,134	100.0	107
9 小平市	81,927	18,947,000	181,193	100.0	105
10 日野市	78,094	17,853,000	170,434	100.0	105
11 東村山市	61,276	15,116,000	143,360	100.0	105
12 国分寺市	57,358	12,826,000	114,731	100.0	112
13 国立市	36,106	8,105,000	72,849	100.0	111
14 福生市	30,055	6,940,000	61,344	100.0	113
15 狛江市	38,765	8,024,000	77,195	100.0	104
16 東大和市	33,132	8,532,000	79,485	100.0	107
17 清瀬市	29,920	7,524,000	69,647	100.0	108
18 東久留米市	46,876	11,712,000	113,453	100.0	103
19 武蔵村山市	27,615	7,905,000	65,994	100.0	120
20 多摩市	34,373	7,506,000	71,130	100.0	106
21 稲城市	24,934	5,657,000	53,793	100.0	105
22 あきる野市	30,252	9,247,000	79,508	100.0	116
23 西東京市	83,413	19,043,000	184,345	100.0	103
24 瑞穂町	14,065	4,502,000	33,580	100.0	134
25 日の出町	5,714	1,860,000	16,321	100.0	114
26 多摩ニュータウン	69,566	18,241,000	170,150	100.0	107

1) 給水人口は年度末現在の「推計人口」を基に作成した。補正人口。
資料：都水道局総務部調査課から作成

資料1 東京都水道局資料より作成

資料活用の能力 - 資料活用の能力を高めることはできたか -

個人から班、学級と読み取った事実を、項目分類表を使ってまとめていく過程を通して、自分が資料から読み取った事実と同じことを指摘していることや同じことを指摘しているも表現に違いがあること、自分では気がつかなかった視点から資料の読み取りをしていることなど様々な発見や気づきがあった。

検証授業以降の読み取った資料の分類は学級全体で行った。分類は、班ごとに整理したものをB4判の大きさに1枚ずつ記入し、体育館を使って並べ、次に項目ごとに並べ直し分類した。項目は、「場所に関すること・人口に関すること・水道使用量に関すること」とし、教師があらかじめ用意し、生徒に伝えた。

生徒はこの学習により、統計資料から数多くの事実を読み取りができることを実感できた。

その後の授業で、読み取り、分類した資料から、なぜそのような結果になるのかを、仮説を立て検証していく学習を進めた。

ここでは特に「一人あた

東京都水道局上水道の水使用量(平成10年~14年度)の資料からの読み取り

No	項目	内	容	個数
1	場	東京都は23区、26市ある		3
2	場	区より市のほうがたくさんある		1
3	場	区部より市郡部の方が多い		1
4	場	東京都の左側(西側)一つ一つの区が大きい		1
5	場	東京都の真ん中は小さい地区が集まっている		1
6	場	区より市のほうが範囲が広い		1
7	場	区は東、市は真ん中にあたりにあつまっている		1
8	場	葛飾区は江戸川区と足立区の間にはさまれている		1
9	場	葛飾区は東京都のはじっこにある		1
10	場	村がまじっている		1
11	場	島がたくさんある		1
12	場	多摩ニュータウンだけカタカナがまじっている		1
13	場	八王子市の面積が広い		1
14	人	奥多摩町が面積が一番広いのはなぜ		1
15	場・人・他	契約件数が増えている		5
16	人	契約件数の多いところと少ないところとの差はげしい		1
17	人	なぜ契約件数が年ごとに増えているのか		1
18	場	市郡部の契約件数は区部と比べると少ない		2
19	場	葛飾区の契約件数は20489件		1
20	場	葛飾区の契約件数は少ない		2
21	場	江戸川区との契約件数が10万以上、葛飾区のほうが少ない		1
22	場・水	契約件数は世田谷区が一番多い		3
23	場	世田谷区は契約件数が1番多い		2
24	場	荒川区が一番、契約件数が少ない(区)		1
25	場	市郡部で八王子市は契約が一番多かった		1
26	場・他	日の出町が一番、契約件数が少ない(市郡部)		4
27	人	日の出町の契約件数はほかのところと比べて少ない		1
28	場・他	区部の普及率はすべて100%		3
29	場	区部のほうが市郡部より普及率以外はすべて多い		1
30	人・水・他	八王子市と青梅市の普及率がなぜ99.99%なのか		5
31	水	普及率が99.9%の所があるが水の通っていない住宅があるのか		1
32	他	99.9%のところがあるが残り0.01%の人たちはなぜ水道を使わないのか		1
33	他	普及率は99.9%で、なぜ100%なのか		1
34	他	普及率とは何ですか		1
35	場	市郡部が少ないのはなぜか		1
36	場	島に住んでいる人はどうしているのか		1
37	場	千代田区はそんなに広くないのに一人あたりの水使用量がなぜ1番なのか		1
38	人・水	年ごとに給水人口が増えている		4
39	人	なぜ給水人口が増え続けているのだろうか		2
40	人	年間の給水人口は増えたり減ったりしている		1
41	人	市郡部より区部のほうが給水人口が多い		2
42	人	世田谷区の給水人口が1番多い		3
43	人	千代田区の給水人口が低い		1
44	人	日の出町の給水人口が他より少ない		2
45	人	日の出町の給水人口が少ないのはなぜだろうか		1
46	人	葛飾区の給水人口は425,690		1
47	人	給水人口は、その市郡部の人口に近い		1
48	人	区部の方が人口が多い		1
49	人	市郡部の人口が少ない		1
50	人	日の出町の人口が少ない		1
51	人	市郡部の土地が広いのに人口がなぜ少ない		1
52	水	東京都の水使用量が多い		1
53	水	年ごとに水使用量が増えている		1
54	水	2年前(平成13年)のほうが1番多い		1
55	水	水使用量は2000年から2001年で減っていた		1
56	水	どうして市郡部より区部の方がよく水を使うのか		1
57	水	市郡部より区部のほうが多いのに区部のほうが水使用量は多い		1
58	水	区部の方が少し多い		1
59	水	市郡部の方が水使用量は少ない		3
60	水	区部のほうが市郡部より水を使う		2
61	水	平成10年度の水使用量が少ない		1
62	水	なぜ平成12年より13年のほうが人口が多いのに水使用量は少ないのか		1
63	水	水使用量が1番少ないのは37,438m ³		1
64	水	水使用量が1番少ないのが1,860,000m ³		1
65	水	平成10年度は一人あたりの水使用量が多い		1
66	水	文京区は台東区より給水人口が多いのに台東区の方が水使用量が多い		1
67	水	世田谷区は1番水使用量が多い		1
68	水	日の出町の水使用量は少ない		2
69	水	練馬区は水使用量が1番多いのはなぜか		1
70	水	一人あたりの水使用量は、なぜ減ってきているのか		3
71	水	一人あたりの水使用量が市郡部より区部のほうが多い		3
72	水	年ごとに一人あたりの水使用量が少なくなっている		1
73	水	一人あたりの水使用量が区部と市郡部と比べると市郡部の方がすくないのか		1
74	水	なぜ一人あたりの水使用量が100m ³ /人以下の所がないのか		1
75	水	千代田区は一人あたりの水使用量が1番なのに契約件数は少ない		1
76	水	千代田区は契約件数が少ないのに水をたくさん使っている		1
77	水	なぜ千代田区一人あたりの水使用量が多いのか		5
78	水	千代田区は一人あたりの水使用量は多いのに、なぜ給水人口は少ないのだろうか		6
79	水	八王子市のほうが面積が大きいのに千代田区のほうが一人あたりの水使用量が多い		1
80	水	葛飾区一人あたりの水使用量は110m ³ /人		1
81	水	葛飾区は江戸川区と比べて一人あたりの水使用量は多くない		1
82	水	一人あたりの水使用量は練馬区が1番少ない(100m ³ /人)		3
83	水	一人あたりの水使用量が市郡部で瑞穂町が1番多い		1
84	水	一人あたりの水使用量が少ないのは練馬区		2
85	水	一人あたりの水使用量がすべて100m ³ /人を超えている		1
86	水	一人あたりの水使用量が1番少ないのは100m ³ /人		1
87	水	一人あたりの水使用量が最も多いのが952m ³ /人		1
88	水	給水人口が市郡部より区部の方が多い		1
89	水	給水人口が年ごとに増えている		1
90	水	平成10~14年にかけて、こんなに水が使われているなんて思わなかった		1
91	他	この資料は1998~2002年までのっている		1
92	他	2002年より先はどうなっているのか		1
93	他	葛飾区はほとんど平均的		1
94	他	区部と市郡部の総数などはすべて区部が多い		1
95	他	なぜこんなにたくさん島の島があるのか		1

資料2 生徒の読み取りとその分類

り給水量の多いところが都心に集中するのは産業とかかわりがあるのだろうか」というような地理的事象に着目できるような仮説の検証を目指し、降水量や気温と水の使用にかかわるものは意図的にはずした。これらの検証の中で、どんな方法でどんな資料が必要なのかを考え、複数の資料から何かを読み取ろうとする姿勢が生まれてきた。

資料を活用する技能・表現の能力や社会的事実を思考・判断する能力を短時間で育てることは難しい。単元を通して、効果的な指導を継続的に行っていくことにより可能となると考える。ここで行った、中学1年生において、まず資料から数多くの事実を読み取ることは、資料活用能力を高めるための基礎の育成に効果があると考えられる。

3 地理的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本分科会では「資料を段階的に読み取らせる指導により、生徒個々が学習意欲を高め、主体的に課題学習に取り組み、グループ活動による相互の啓発につながる学習ができ、学力の向上にもつなげることができる。」を仮説とし、資料を読み取る力を意図的に育成することにより、学び方や地域的特色などの知識・理解といった確かな学力の基礎を身に付けていく過程を研究した。自らの課題を発見し、解決する力の基礎的な能力として、いろいろな読み取りができる資料を教師が提示し、生徒がその読み取りを通して資料を多面的・多角的に読み取る活動を重視した。その結果、以下のことが明らかになった。

統計を集中して丁寧に読み取る活動により、生徒の学習意欲が高まり、資料活用の技能が育った。

「地域の規模に応じた調査」では、地域的特色をとらえる視点や方法といった学び方を身に付ける学習に主眼が置かれている。地理情報を多面的・多角的に読み取る力を育成することとして、今回は、「特に地理情報として提供されたものでない情報を、どのように加工、処理すれば地理情報として活用できるか」「地理情報を使って地域的特色をどう説明、紹介するか、地理情報の処理や表現に関する技能を身に付けさせる」という二点に主眼をおいて研究を進めてきた。

検証授業では、東京都水道局作成の水道使用量の統計資料からわかったこと、気付いたこと、思ったことをできるだけ多くノートに書き出させ、更に分類、仮説の検証という手順で、地理情報をとらえなおした。発見、分類、考察、発表という手順で地理的事象をとらえることにより、資料へ取り組む姿勢を育成することができた。

統計資料の読み取りを通して、東京都の地域的特色を自らとらえることができた。

本研究では、東京都水道局作成の水道使用量の統計資料と東京都の行政区分地図から読み取ったことを、場所に関すること、人口に関すること、水道使用量に関することに分類することにより、数値の大小だけでなく他の区や市との比較など資料の読み取りの幅が広がり、様々な見方で東京都を調査する課題設定に生かすことができた。

生徒は東京都における人口の集中、使用量とのかかわりから地域的特色をとらえ、産業の分布、さらには地形といった都道府県規模の地域的特色をとらえることができた。

統計資料と、区市町村の境界が入った東京都の白地図とを併用することにより、統計から得た情報を地図化または地図との関連で把握・理解・課題化することが可能となり、より効

果的に東京都全体の地域的特色をとらえさせることができた。

評価と学習形態の工夫により一斉授業の中で個に応じた指導を充実させることができた。

生徒一人一人に確かな学力をつけさせるために、1時間の授業の中で生徒個人のもつ力を十分に発揮させることと、班や学級全体で他の生徒と切磋琢磨する学び合いによる集団の特性を生かした学習とを併用したことが効果的であった。

検証授業では、個々に気付いたことをノートに書かせ、教師に報告させる形式をとり、何人かの生徒には黒板に書くよう指示した。これにより、個人の学習を見ることができるとともに、生徒が相互に成果を確認することにより、それまでノートに何も書けなかった生徒のヒントにもなり、学習を促す有効な契機となった。また、教師が、生徒の持ってきたノートにシールを貼り、あるいは黒板に書かせることにより行う形成的評価は生徒一人一人への個別の支援的なかかわりを可能とし、学習意欲の向上にも結び付いた。

個人での読み取りとグループでの話し合い、全体での確認と三つの学習形態を組み合わせることにより、生徒の学習に多面的・多角的な広がりをもたせることができた。

また、よくわからないと言う生徒にも個別の指示や声かけができた。生徒が主体的に取り組める活動や学び合いを取り入れることにより、一斉授業の中でも教師が個に応じた指導の充実を図ることができることも本研究の成果である。

(2) 今後の課題

水道使用量に関する統計資料は各都道府県の水道局等で作成されており、インターネットを利用すれば比較的容易に入手可能なので、どの中学校でも利用することができる。資料活用の技能・表現の力を育て、都道府県規模の地域的特色をとらえさせるために統計資料を集中して読み取らせることは有効である。しかし、基になる資料を生徒に分かりやすい形にするために必要なところを教師が整理して提示しないと初歩の段階では必要な情報の読み取りが難しくなるという点もある。対象生徒の発達段階、単元のねらいに応じて適切に統計資料を加工した上で提示する工夫が必要である。

また、教師のかかわり方で生徒の学習効果は大きく変わってくる。特に、問題提起時と読み取り活動中に、生徒の関心を引き出すための効果的な言葉かけ等の手だてを行う必要がある。

さらに、資料の読み取りに慣れていない段階では、資料の読み取りに十分な時間を充てないと、生徒一人一人の課題に関連する材料が少なく、地理的な視点に基づくような課題が設定できないことも起こりうる。限られた時間の中でより効果を高めるためには、3年間の教科指導計画の中に、資料活用に関する計画的・発展的な指導をより効果的に取り入れていく必要がある。

加えて、地理的分野で扱う統計資料は地理情報の一つであって、実際には他に多くの資料があり、それらを活用できる能力を育成することと、育成された能力により国土の認識を深めさせることが求められている。見知らぬ地域を、地図を頼りに歩く技能や、情報の地図化など、今回の研究では取り上げることができなかった。資料の扱い方や量等について検証することが今後の課題と考える。

歴史的分野の研究内容

1 歴史的分野の研究副主題および副主題設定の理由

歴史的分野の研究副主題

様々な立場を想定し、複数の歴史的事象を考察させる指導の工夫

(1) 研究のねらい

社会科で身に付けさせる資質・能力

現行の学習指導要領の基本的なねらいは「生きる力」の育成である。そのために、各学校では生きる力の知の側面である「確かな学力」をいかに付けていくかが求められている。平成15年中央教育審議会答申の中で「[確かな学力]とは、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたもの」と述べられている。「確かな学力」とは広範な力であり、知識が思考力・判断力・表現力と結び付いて実際の生活の中で課題を解決していく力となる必要がある。各種調査結果に目を向けてみると、経済同友会による企業への調査、大学入試センターによる大学教員への調査、文部科学省による保護者や教員への調査など、いずれの調査からも、「論理的思考力」、「考える力」などの大切さが求められていることが分かる。このことから、「確かな学力」とりわけ「思考力」を付けることは社会の要請と言える。

中学校社会歴史的分野でねらう資料活用

歴史的分野は、社会的事象の形成過程を扱う分野である（中学校学習指導要領解説社会編より）。そのため、現在目の前にその事象が展開されているというのではなく、いくつかの資料により、過去に歴史を動かしたと思われる事象を考察していくものである。したがって、歴史的分野で身に付けさせたい思考力や判断力は、歴史的事象を示す資料をどのようにとらえるかということと密接に結び付いている。

そこで、歴史的分野分科会では、歴史上のある一時期において、様々な立場の人々の考えに触れるような資料を活用し、多面的・多角的に考察する力を高めることを目指した。実物、文書、視聴覚教材等の活用または課題学習や個別指導を工夫することによって、思考力・判断力を高め、個に応じた指導の一層の充実を図ることができると考えた。

(2) 研究の仮説

生徒の実態と身に付けさせたい力

「平成15年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」によると、4つの観点の正答率では、

社	地理的分野	75.3%		社会的事象への関心・意欲・態度	89.0%	
	歴史的分野	77.5%		社会的な思考・判断	76.1%	
会				資料活用の技能・表現	81.3%	
				社会的事象についての知識・理解	70.5%	
	総合	76.4%				

平成15年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書より

〔社会的事象への関心・意欲・態度〕と〔資料活用の技能・表現〕は大変高いが、〔社会的な思考・判断〕は社会科全体の正答率とほぼ同じ数値を示し、〔社会的事象についての知識・理解〕は、社会科全体の正答率よりも低い数値を示した。〔社会的な思考・判断〕について

は、「論理的思考力」「考える力」の育成が求められている。本分科会でも、これを生徒に身につけさせたい力と考えた。報告書では、社会的な思考・判断を育成するためには、毎時間の授業の中で短時間でも作業的な学習を取り入れたり、年間指導計画を工夫して単元によって適切な課題を設けた学習を取り入れたりして、自ら考え判断する習慣を身に付けさせたいとしている。

そこで、本分科会では歴史的事象を多面的・多角的に考察する経験により生徒の思考力をはぐくむための具体的な指導方法を検討した。また、報告書では適切な思考・判断をするためには的確な知識・理解の定着が大切であること、また、知識・理解を育成する指導としては、個々の歴史的事象を分析して暗記させるのではなく、その事象内容や歴史的意味を他の歴史的事象とのかかわりの中で繰り返し理解させることが大切であるとしている。これを受けて、複数の歴史的事象のかかわりについて理解する学習活動も取り入れていくこととした。

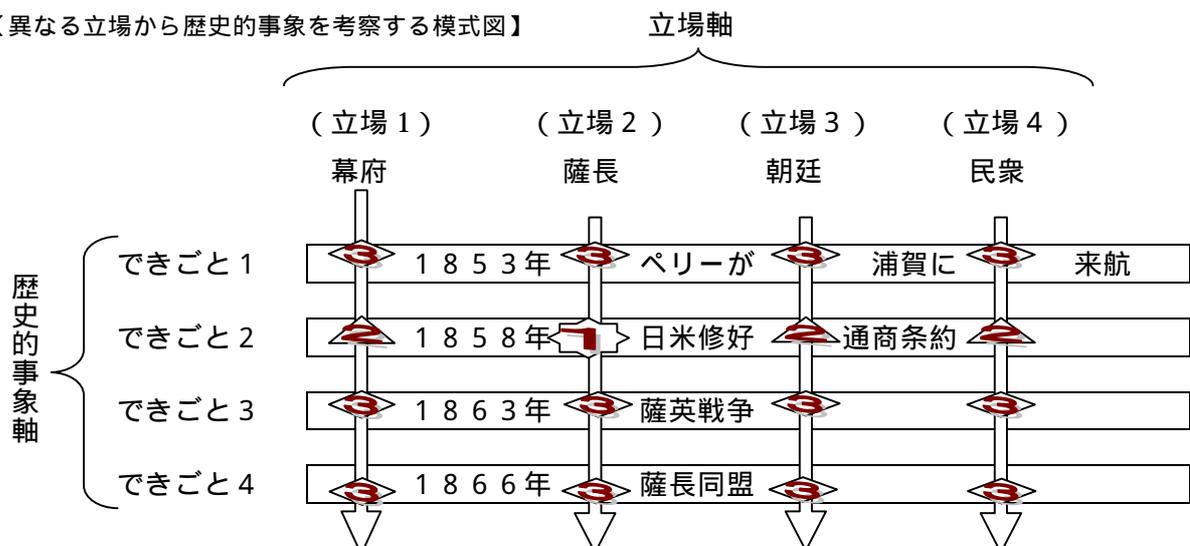
生徒に多面的・多角的な考察をさせるための教材の工夫

中学校学習指導要領第2節社会〔歴史的分野〕(以下学習指導要領<歴史>と記す)の内容(5)アを取り上げ、開国とその影響について4つの歴史的事象と4つの立場を設定し、資料を活用し多面的に考察する指導を行った。ペリー来航から開国に至るこの期間は、立場の違いによる対立関係が鮮明な時期であり、多面的な考察に適切な単元と考えたからである。

この中で生徒個人が自分で調べるのは1つの立場、1つの歴史的事象の交差する箇所だが、立場、歴史的事象をグループで学習し合う活動を通して、4×4すなわち16の交差する点から考察することが可能となる(下図参照)。最後はこれらを基に年表にまとめる作業を通して自分の言葉で時代の変化を表現させた。また、これら一連の過程でグループ学習と個別指導を組み合わせた指導方法を工夫し、個に応じた指導の一層の充実を目指した。

この学習を通して、「複数の歴史的事象の関連を図り、異なる立場を想定した資料の考察を工夫する指導により、多面的・多角的に考察する力を高めていくことができる」を仮説として研究を進めることとした。

【異なる立場から歴史的事象を考察する模式図】



(例) [立場2 (薩長)]をとった生徒が、[できごと2]を担当した場合

- 1 ①を考察する。
- 2 できごと班での発表により ②を考察する。
- 3 その発表を聞いた立場班のメンバーが発表し合うことにより、③について考察する。

2 検証授業

- (1) 単元名 開国と近代日本の歩み
- (2) 小単元 欧米の進出と日本の開国（11時間）
- (3) 本単元のねらい

本単元は、幕藩体制が揺らぎ、近世封建社会が崩壊していく過程を学習していく。その際に、日本国内における、貨幣経済の農村への浸透、農村工業の発達、年貢（米）中心に依存する幕藩体制の経済構造の限界などの内的要因と、欧米諸国のアジア進出といった外的要因が複合的に合わさって幕府が対外政策を転換して開国したことに気付かせたい。また、市民革命や産業革命を通して、近代国家としての基礎を整備していった欧米諸国の存在が、日本の近代社会の形成に大きな影響を与えたことを理解させ、日本と欧米諸国との間にある大きな歴史的因果関係や背後関係を理解させる。

(4) 目標

幕末から明治維新までの時代の流れを通して、日本の近代化をとらえさせる。

日本に影響を与えた欧米諸国が市民革命を通して、どのように近代国家を形成していったかについて理解させる。

欧米のアジア進出が、日本にどのような影響を与えたかを考察させる。

(5) 指導計画

- 近代産業革命の時代 （1時間）
- 産業革命と欧米諸国 （1時間）
- ヨーロッパのアジア侵略（1時間）
- 開国と江戸幕府の崩壊 （8時間・本時）

(6) 指導内容

主題 開国から江戸幕府崩壊までの流れ

目標

ア 黒船来航から幕府崩壊までの大きな時代の転換点をとらえさせる。

イ 欧米のアジア進出、植民地化を背景として、アメリカが日本に開国を要求したことを理解させる。

ウ 鎖国に不満を抱く下級武士が討幕運動の主体となっていった背景を考えさせる。

エ 開国・攘夷、佐幕・倒幕など、それぞれの立場を当時の時代状況を背景に考えさせる。

指導上の工夫

ア 様々な立場から歴史的事象を考えさせる … 一つの歴史的出来事も立場（身分・組織内における地位など）が異なると、行動や考え方も変化することに気付かせ、多面的・多角的な視点から歴史的事象をとらえさせる。

イ ワークシートを工夫する … 他の生徒が発表した内容をまとめるワークシート、学習内容を整理するワークシートなど、学習活動や形態に応じたワークシートを使用する。

ウ 個に応じた指導を充実させる … 学習課題の設定や資料の選択、歴史新聞の作成など、様々な場面で個別的指導を取り入れる。

学習指導計画（8時間）

時限	学習目標・内容	学習活動	学習の評価	教師の指導・留意点
1 3	ガイダンスの中で、1～8時限目までの学習内容やねらいを理解する。開国から倒幕までの流れを理解する。 幕府・朝廷・薩長・民衆の四つの立場を決める（一つの立場は8～9人）。さらに立場ごとに分かれ、四つの歴史的事象から自分が担当する歴史的事象の一つを選ぶ。 各生徒が選択した歴史的事象について、自分の立場の置かれた状況を考察し、発表内容をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント「学習の進め方」に従って、この学習の流れや意図をつかむ。 ・開国から倒幕までの大まかな流れを視聴覚教材や資料を通してつかむ。 ・発表する際に必要な資料を収集する。 ・資料を有効に活用して、発表する内容を各生徒が「事象ワークシート」にまとめる。 	<p>【関心】意欲的に学習課題に取り組んでいる。</p> <p>【資料】自分の選択した歴史的事象に関連のある資料を適切に選択している。</p> <p>【思考】選択した資料を有効に活用し、分析している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立場の決め方は、原則として生徒の希望を優先するが、希望が集中した場合は調整する。（一事象一立場で2～3人） <p>歴史的事象 ペリー来航 日米修好通商条約 薩英戦争 薩長同盟</p>
4 本時	同じ歴史的事象(例えば上記のペリー来航)を調べた各立場(幕府・民衆・朝廷・薩長)の生徒が集まって、立場とその事象とのかかわりについて発表する。 自分以外の立場の生徒の発表を聞き、同じ歴史的事象でも立場が変わると考え方や行動などが異なることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場から、上記の四つの事象のうち、自分が選択したものについて、資料を活用してわかりやすく発表する。 ・他の立場の発表内容を「<u>第一段階発表記録用紙</u>」に記録し、四つの立場からその歴史的事象について考察する。 	<p>【思考】適切な資料を使い、わかりやすい発表内容を考察している。</p> <p>【関心】自分以外の立場の発表内容を他の生徒の発表から取り入れている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表後、立場ごとに、教科書や資料集を活用して、その歴史的事象を再確認するように指導する。 ・生徒が主体的に発表を行えるよう発表の留意点を示す。
5 6	四つの立場の行動・状況をまとめた事象ワークシートや第一段階発表記録用紙を活用して、自分の担当した歴史的事象(例えば、ペリー来航)について、歴史新聞にまとめる。 四つの立場を歴史新聞にまとめる作業を通して、多面的・多角的に歴史的事象を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表で分かったことを参考に、主体的に資料を選別し、四つの立場を取り入れた<u>歴史新聞</u>を作成する。 ・新聞に掲載する資料については、その歴史的事象を分かりやすく伝えられるものを自分で選択し、レイアウトを考える。 	<p>【関心】自分の知りたいことを明らかにし、意欲的に学習課題に取り組んでいる。</p> <p>【資料】歴史新聞の中に地図、年表、絵画、グラフなどを適切に表している。</p> <p>【思考】歴史新聞を、各立場を意識してまとめている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、幕府の立場の生徒は、他の三つの立場についても必ず記事に入れるように指導する。 ・記事のまとめ方については、生徒が主体的に考えるよう促す。
7 8	第1時限の立場ごとの班に戻り、自分の作成した歴史新聞を活用して、自分が担当する歴史的事象を発表する。 自分以外の生徒の発表を聞き、開国から大政奉還までの大きな歴史的な流れを「 <u>年表ワークシート</u> 」にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の四つの歴史的事象について、生徒がすべての立場(第4時限で収集した発表内容を基に)から、自分の担当した歴史的事象を発表する。 ・他の事象の発表内容を「<u>第二段階発表記録用紙</u>」に記録し、四つの立場からそれぞれの歴史的事象について考察する。 ・四つの歴史的事象について、「年表ワークシート」にまとめる。 	<p>【思考】一つの歴史的事象を様々な角度からとらえ、多面的・多角的な見方をしている。</p> <p>【知識】年表ワークシートにより、時代の流れをつかんでいる。</p> <p>【関心】自分以外の歴史的事象の発表内容をわかりやすくまとめようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で、開国から大政奉還までの時代の変化を説明できるように年表ワークシートにまとめさせる。

太字の部分が、特に「個に応じた指導」を重点的におこなう部分で、太字・下線部の部分は授業の考察のページに掲載したワークシートを参照。

本時の展開（４／８時間）

	学習内容	学習活動	評価規準 (評価の観点)	教師の支援・留意点
導入	<p>四つの歴史的事象ごとに集まり（すべての立場の生徒がいるようにする）自分の発表する内容を確認する。</p> <p>発表する順番や進行役を決め、発表の準備をする。自分の班の歴史的事象の内容について、もう一度確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事象ごとに分かれる（右記の～の四つ）。 ・事象ワークシートを基に、自分が四つの事象のどの立場で発表するかをもう一度確認する。 ・発表する内容について整理する。 ・発表に使う資料の準備をする。 	<p>【関心】本時の学習のねらいをとらえ意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【資料】自分の選択した歴史的事象に関連のある資料を適切に選択している。</p>	<p>4つの歴史的事象</p> <p>ペリー来航 日米修好通商条約 薩英戦争 薩長同盟</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的に確認し合う雰囲気をつくる。 ・発表のポイントを生徒一人一人に考えさせる。
展開	<p>（立場ごとに発表）</p> <p>四つの立場から一つの歴史的事項を見ていく。立場ごとに（２～３名）自分が選択した歴史的事象と関連のある出来事を発表する。</p> <p>第一段階発表記録用紙に発表内容を記入する。それぞれの立場でわからないことや疑問点について質問する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を有効に活用し、自分の立場として、どのようなことを考え、どのような行動を選択したのかをきちんと伝える。 ・第一段階発表記録用紙に、他の生徒の発表を記録し、次の授業から自分が新聞を作成できるようにまとめる。 	<p>【思考】資料を適切に使って、発表内容をわかりやすく工夫している。</p> <p>【関心】自分以外の立場の発表内容をとらえようとしている。</p>	<p>4つの立場</p> <p>幕府 民衆 朝廷 薩摩・長州</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際には、特定の生徒が行うのではなく、それぞれに分担させる。 ・各班に、第一段階発表記録用紙の使い方を説明する。
まとめ	<p>（次時の展望）</p> <p>自分が作成した事象ワークシート、発表を聞いてまとめた発表記録用紙から、歴史新聞の構想を考える。</p> <p>次回の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表記録用紙を完成させる。 ・自他の立場について気付いたことをまとめ、その歴史的事象について分析する。 ・四つの立場から一つの歴史的事象をどうとらえるかについて考える。 	<p>【思考】歴史新聞の内容について、各立場の状況を考えつつ、構想している。</p> <p>【関心】意欲的に新聞の作成に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導により、一人一人の進度に応じたアドバイスを行う。 ・生徒が主体的に学習を進める雰囲気をつくる。

評価

- ア 自分が担当した立場や歴史的事象について、意欲的に発表しようとしている。【関心】
- イ 資料を活用して、一つの歴史的事象を多面的・多角的に捉えている。【思考】
- ウ 多面的、多角的に考察した資料を、歴史新聞の中で表現している。【資料活用】
- エ 開国～幕末までの因果関係をつかんでいる。【知識】

(7) 授業の考察

資料活用を重視した学習

ア 資料の収集、選択

資料活用を重視した学習という研究主題から、歴史的事象ごとに四つの立場の動きやかかわりがみえてくる資料の収集が課題となった。資料活用の能力を高めるための学習活動としては、資料の収集、選択から生徒に行わせる必要があったが、研究副主題を重視し、ここに多くの時間をかけないこととした。よって、指導者があらかじめ用意した文献史料（学習資料として再編された二次史料を含む）、絵画・絵図等の画像史料、統計等から生徒が選択し、その資料を活用して事象ワークシートにまとめていく学習活動から始めた。

また、第1時にまったく関係のない資料を手にする生徒の動きがみられたため、第2時は、指導者が歴史的事象ごと、さらに立場ごとに分別した資料をそれぞれの担当生徒に渡すことにした。このことで生徒の学習活動は円滑に進むようになり、資料の中からの確に關係する内容を読み取り、ワークシートに記入していく生徒の姿が見られるようになった。

イ 資料の活用

資料を活用して様々な立場からそれぞれの事象を考察するという学習活動を進める上で、生徒にとって活用しやすい資料の準備が重要であった。本分科会研究員で資料の収集活動を行い、分量の多寡はあるもののそれぞれの事象、立場ごとに関係する資料を用意した。当時描かれたペリーの似顔絵や、黒船を見物する人々の絵画資料は、生徒の興味を引き付け、そこから何が読み取れるのか生徒たちが考えている場面が見られた。また、生徒の学習用に再編された「歴史新聞」から当時の状況を読み取ることができた生徒もいた。課題としては、資料が文章、絵画、歴史新聞等に偏り、十分に多種・多様な資料を提示することができなかったことが挙げられる。資料を読み取ったことから、一つの時代を理解していく過程は相当の時間が必要であった。

様々な人々の立場から歴史的事象を多面的・多角的に考察する学習

ア 四つの立場の設定と、それぞれの立場についての共通理解

幕府、民衆、朝廷、薩摩・長州という立場について、まずそれぞれの位置付けを共通理解しておく必要があり、第1時のガイダンスで生徒が把握できるように指導した。立場をどのように設定すれば歴史的事象を大きくとらえることができるのかについては、本分科会でも議論を重ねたところだった。実際に、生徒が学習活動を進めていく中でも、立場設定の難しさを再認識した。例えば、薩摩と長州の両藩は、共通の行動をとることもあれば敵対することもあり、朝廷の中にも複数の考え方が混在する時期がある。また、薩英戦争における民衆のかかわりについては関連付けが難しく、担当した生徒が説明に窮する場面もみられた。しかし、生徒に多面的・多角的に考察する力をはぐくみ広い視野から歴史的事象をとらえさせるには、取り上げる単元の特性、学校や地域、生徒の実態に応じて教師が複数の立場を意図的に設定することはやむを得ないと判断した。

イ 新聞作成の工夫と課題

新聞作成の学習活動を進めるうえで指導の重点としたことは、四つの各立場から歴史的事象を大きくとらえていくというこの学習の目的を意識させることであった。ただし、紙

面構成を四等分するというのではなく、それぞれの事象における関係の深さなどを考慮して、軽重をつけて作成するように指導した。作品を分析すると、紙面を四つに分けて各立場でその事象とのかかわりを説明するという形式のものが多かったが、中には「仲良くなった薩摩と長州」に対して「裏切られた幕府」と一つの事象を両方向からながめその歴史的意義を表現しようと、新聞作成に工夫を施した作品もあった。どの生徒も限られた紙面の中に、四つの立場を盛り込むことを意識して新聞を作成できたことは、本研究のねらい通りの大きな成果であったと言える。

評価上の課題

本研究では、ワークシートや記録用紙、新聞の作成も全て個人で行うこととし、評価もそれらを基に行うこととした。発表する場面は二回あるが、共に四箇所に分かれて行われているので、必ずしもその場面を評価することができないからである。実際には、ワークシートや新聞作成の過程では、同事象、同立場の生徒（2～3人）で資料を共有しているので、作成された作品が同じようなものになるという結果となった。また発表記録用紙については、発表会の後に生徒間で用紙をまわして記入する場面が見られた。このような学習活動における適切な評価方法については、さらに研究を続ける必要がある。

個に応じた指導

どの立場、どの歴史的事象について調べるのかについては各自の希望をできるだけ生かし、担当を決めた。これは、生徒の興味・関心等に応じた課題学習と位置付けることができる。また、発表に至るまでに、授業中の声かけやワークシートへのアドバイスの記入などを通して、個人個人の到達度に応じて指導することができた。二回にわたるグループ別の発表活動では、発表やまとめ方がうまくできる生徒とできない生徒との間で、良いところを見習おうとする姿、丁寧に教えようとする姿が見られた。

<生徒のワークシートより>

第一段階 発表記録用紙				
とりあげる歴史的事象【 日米修好通商条約 】				
あなたが発表した立場【 幕府 】				
(問) 発表する人の説明をよく聞き、上の歴史的事象と四つの立場それぞれのかかわりについてまとめ、次の表を完成しなさい。				
この時、それぞれの立場が置かれていた状態について				
この事象との関係について				
この事象のあと、どのような変化があったかについて				
日米修好通商条約における4つの立場				
幕府	朝廷	薩摩・長州	民衆	
アヘン戦争で中国がイギリスに負けたことにより、対応の仕方を変更しなければならなかった。	調印の反対をしたが、幕府に無視された。	将軍の後継問題や条約調印問題で幕府と対立。	あまり外国との付き合いを望まなかった。	
やむを得ず開国に踏み切り、条約を結んだ。五つの港(神奈川、兵庫、新潟、長崎、函館)を開く。不平等な内容。	勅許を出さないのに勝手に幕府が調印をした。	勅許なしの条約調印で、幕府と対立。	不平等条約の影響 ・治外法権(日本で罪を犯した外国人を裁くことができない) ・関税自主権がない	
批判に対し、井伊直弼による独裁的な政治(安政の大獄)。反感を買い、井伊直弼は暗殺される(桜田門外の変)	幕府に対して不満をもつ。	吉田松陰が処刑されるなど、尊皇攘夷思想の者は処罰される。水戸藩はこれに対し、桜田門外で井伊直弼に報復。	輸出品の値段が上がり、生活必需品も値上がりし、人々の生活は苦しくなる。幕府や外国人が悪いと思う人が増える。	

<生徒のワークシートより> (第一段階の発表内容について指導した。)

第二段階 発表記録用紙				
発表する人の説明をよく聞き、次の歴史的事象とそれぞれの立場の関わりについてまとめ、次の表を完成しなさい。				
	幕府	朝廷	薩摩・長州	民衆
	アヘン戦争で中国がイギリスに敗北したことに大きな衝撃を受けた。1853年アメリカのペリーが浦賀にきた。翌年日米和親条約を結ばせた。	開国について、幕府から意見を求められた。	ペリーが来る前は幕府のいいなりになっていたが、これ以降幕府から意見を求められ、開国には反対した。	外国人に対して恐れや驚きがあった。
	1858年、大老井伊直弼は勅許を得ずに、五つの港を開き貿易を始めた。治外法権を認め、関税自主権がないなど、日本にとって不平等な内容だった。	朝廷の許可を得ずに幕府が条約に調印したから、幕府に不満をもった。	二つの問題(条約と将軍の後継ぎ)で幕府と対立していた。 安政の大獄で処罰を受けた者が多く、水戸藩士は桜田門外の変で報復した。	開国により、輸出品と共に生活必需品も値上がりし、生活が苦しくなった。関税自主権がないため、輸入品が安く売られて国内の物を売るのが大変になった。
	公武合体政策を進め、朝廷の権威を借りようとしていた。	孝明天皇の妹が徳川家と結婚し、幕府に攘夷の実行をさせた。	生麦事件の報復で1863年に薩英戦争が起き、翌年長州藩も下関を外国に占領された。攘夷の不可能さを知り、外国に負けない国づくりの必要性を感じた。	戦争で被害を受ける者もあった。外国の強さに気付いた。開国論を唱えるようになった。
	倒幕運動などの動きを見て、政権を維持していくのが難しくなり、将軍慶喜は政権の返上を申し出た。	孝明天皇の死で倒幕派が勢力をつけた。三条実美や岩倉具視は王政復古の大号令を主張した。	仲が悪かった両藩も、坂本竜馬の仲立ちで1866年薩長同盟を結び倒幕運動を進めた。	苦しい生活を送り、百姓一揆や打ちこわしが多発した。「ええじゃないか」と町を荒らし幕府批判の声が大きくなった。

<生徒作成の歴史新聞の例>

民衆の立場で薩長同盟を調べた生徒

幕府の立場でペリー来航を調べた生徒



3 指導例

検証授業でも見られたように、資料活用を重視し、様々な立場を設定した学習活動は、一つの歴史的事象を多面的・多角的にとらえることが可能であり、同時に教師の支援が、より個に応じた指導の場面を多くつくり出すことができた。このような有用性を踏まえ、以下のような授業を立案した。

(1) 単元 近代日本の歩みと国際社会

(2) 小単元 アジアの日本から世界の日本へ(12時間)

(3) 目標

大陸をめぐる当時の国際情勢を背景に、我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましをとらえさせる。

富国強兵・殖産興業政策の下で進展した我が国の近代産業が産業革命を経て発展したことと、その中での国民生活の変化を理解させる。

近代文化が都市を中心に形成され、文化の大衆化が進んだことに気付かせる。

(4) 本単元に関する考察

本単元は学習指導要領(5)「近現代の日本と世界」の(ウ)(エ)の中から、日本の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましに関して、当時の国際情勢を踏まえ日清・日露戦争、条約改正などの歴史的事象を様々な立場を通して理解させる。同時に、日本の東アジア地域での帝国主義の動きを一連の歴史の流れから気付かせたい。また、日本の近代産業の発展が当時の国策を通して培われた点を身近な地域の産業や農村地帯を例とし、具体的な国民生活の変化、とりわけ生活の向上と新たな労働問題、社会問題が発生したことに関連付けて理解させる。

(5) 指導計画

日清・日露戦争とアジアの国々の動き(6時間)

日本の産業革命と国民生活の変化(5時間)

明治の文化(1時間)

(6) (5) の指導内容

主題 日清・日露戦争から第一次世界大戦前までの流れ

目標

ア 日清・日露戦争、条約改正を通して、各国の立場から大陸との関係のあらましを調べ、発表しようとする。

イ 日本の帝国主義の動きを、具体的な資料や事例、事象に基づいて推論し、説明する。

ウ 国際的な地位の向上と大陸との関係のあらましを諸資料に基づき説明する。

時限	学習目標・内容	学習活動	学習の評価	留意点
1 ・ 2	授業内容の基本的事項を確認する。 班内で中国、ロシア、朝鮮、欧州の立場を決める。その後、各立場班の中で3つの歴史的事象を分担する。 それぞれが選択した歴史的事象について、自分の立場を諸資料から考察し、発表内容をまとめる。	・簡略年表の作成 ・立場の分担 ・3つの歴史的事象の設定 日清戦争 日露戦争 条約改正 ・発表に必要な資料の活用	【関心】意欲的に学習課題に取り組んでいる。 【資料】必要な諸資料を適切に活用している。 【思考】資料を有効に活用し、分析している。	・簡略年表の作成を通して、基礎的事項を確認させる。 ・立場の設定は学級の特性に依拠して配分する。

3 ・ 4	各歴史的事象について、各立場の生徒が発表、考察し、まとめる。それぞれの立場をまとめた事象ワークシートを活用し、歴史新聞を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表とまとめ ・事象ワークシートの作成 ・歴史新聞の作成 	【思考】適切な資料を活用し、発表内容を考察している。	・生徒が主体的に発表を行えるようにする。
5 ・ 6	歴史新聞をもとに最初の班内で発表し、全体像を理解する。発表内容を年表ワークシートにまとめ、日本の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましについて説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表準備と発表 ・年表ワークシートを活用した学習内容の確認 ・相互評価 	【思考】多面的・多角的な見方で他の立場も踏まえた考察をしている。 【知識】全体の流れを理解している。	・学習内容を踏まえ、日本の変化を年表ワークシートにまとめさせる。

(7) (5) の指導内容

主題 身近な地域における国民生活の具体的変化の考察

目標

ア 日本の近代産業が当時の政策の下で進展したことを理解する。

イ 身近な地域における様々な立場の相違点を、産業革命前後での生活の向上、新たな労働問題、社会問題から見だし、発表し、理解する。

ウ 日清・日露戦争前後の時期から日本の産業革命が進展したことを、具体的な資料や事例に基づいて説明する。

時限	学習目標・内容	学習活動	学習の評価	留意点
1 ・ 2	日本の近代産業の発展を諸資料から考察し、基本的事項を確認する。 当時の身近な地域の産業と生活について図書資料等を調べ、資料を収集、選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ・重工業、軽工業の変化の諸資料からの読み取る。 ・身近な地域の諸資料を調査し収集、選択する。 	【思考】資料を読み取り、考察している。 【資料】適切な資料を収集、選択、活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的事項を確認させる。 ・必要な資料を収集させる。
3 ・ 4	身近な地域における立場を設定し、分担する。 各立場の生活の変化を諸資料から追究、考察し、ワークシートに記入する。 歴史新聞にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される立場を設定する。 農村生活者 都市生活者 鉄道企業経営者と従事者等 ・諸資料を収集、選択し、活用する。 ・歴史新聞を作成する。 	【関心】意欲的に学習課題に取り組んでいる。 【資料】身近な地域の資料を収集、活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・立場の設定は学級の特性に応じて配分する。 ・身近な地域を中心にまとめさせる。
5	歴史新聞を班内で発表し、すべての立場について発表内容を模造紙にまとめる。 国民生活の変化について説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容を発表する。 ・模造紙に記入する。 ・相互評価をする。 	【思考】各立場の相違点を見出せている。 【知識】国民生活の変化を説明している。	・近代化が及ぼした大きな変化をとらえさせる。

(8) (5) 及び の評価規準

自分が担当した立場や事象について、意欲的に発表しようとしている。【関心・意欲・態度】

ワークシートを活用し、諸資料から得た学習内容を多面的・多角的にとらえている。【思考・判断】

様々な資料を適切に収集、選択、活用し、必要な資料を用いて新聞を作成している。【資料活用の技能・表現】

日清・日露戦争から第一次世界大戦前までの因果関係をつかんでいる。【知識・理解】

4 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本分科会では、生徒自らが学習課題を設定し、資料の選択・活用を通して、歴史的事象を当時の様々な人々の立場からとらえ、考える点を重視し、学習内容や学習指導の工夫を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

それぞれの立場で歴史的事象を考察することによって、開国とその影響について多面的・多角的にとらえることができるようになった。

歴史的事象を様々な角度から考察することは、公正に判断する能力を育成するには大切である。適切な資料を収集・選択・活用し、多面的・多角的に歴史的事象を見ていくことで、立場により行動や考え方が変わること気付くことができた。検証授業では、立場を幕府・朝廷・薩長・民衆に分け考察を進めた。それぞれ調べたことを新聞にまとめ、互いに発表することで立場の違いを理解し、より深く歴史的事象をとらえることができた。

適切な資料を活用・分析し、まとめることで、適切に表現する力を養えた。

たくさんの資料の中から、自分のまとめる内容に従い資料を選択することは、情報化社会が本格化してきた現代においては、必要な能力であると考えられる。検証授業で、個々が事象ワークシートに記入していく過程で、個に応じた指導を取り入れ、適切な資料を選択し、自分の発表内容を作成していった。資料を複数使用することで、歴史的事象を多面的に考察するなかで、公正に判断する力が養われていった。また、他の意見を聞くことで多角的に歴史的事象をとらえ、自身の発表と新聞作成を通して表現する力が養われていった。一人一人が自分の立場で発表する形式は、生徒にも多少なりとも刺激を与えるよい機会になった。

(2) 今後の課題

今回の研究では、歴史的事象を多面的・多角的に考察し、判断する指導についての工夫とその有効性を考えた。以下、課題を二点挙げる。

資料の収集・提示の方法

地理的な資料と違い、歴史的事象の資料は誰が書いたものか、どんな立場のものかなどでとらえ方が異なってくる。資料活用を重視した学習という研究主題の根幹である資料については、どのように選び、何を使用するか考えた。ア) 学習を促進する資料か、イ) 歴史の流れのなかでその資料をどうとらえるか、ウ) 提示の方法、資料の分類作業などである。また資料の選定段階では、個に応じた指導が有効であるかについても検討した。「個に応じた」ということは、積極的に調べていける、わかりやすい資料として提示することが有効であり、どの単元においても同様の提示ができるかが課題である。

学習方法・発表方法の工夫

生徒の組み合わせ方や、ワークシートの工夫など、学習の進め方・発表形態の工夫が課題となった。また資料に取り組む前に、歴史的事象の流れをあらかじめ生徒に説明してから作業に入ることも検討する必要がある。

研究のまとめ

本年度は「資料活用を重視した学習を通して、確かな学力をはぐくむ指導の工夫」を研究主題とし、地理的分野、歴史的分野の分科会を設け、それぞれ「都道府県規模の調査における資料を読み取る力をはぐくむ指導の工夫」と「様々な立場を想定し、複数の歴史的事象を考察させる指導の工夫」を副主題に研究を進めてきた。

中学校学習指導要領解説社会編には、「社会科の学習対象とするものは、人間の行動を含めた社会的事象であり、その中心は現代の社会である。その社会的事象は、空間的な広がりの中で、また時間的系列の中で具体的なものとして現れ変容していく。こうした事象を中学生に幅広い視野からとらえさせるために学習すべき内容を社会科として選択し、これを学習の観点から大きく分類していくと3分野のそれぞれの内容となる。社会的事象の地表面にあらわれた現象を主として地理的分野で、社会的事象の形成過程を主として歴史的分野で、社会に生きる人間を初め、社会的事象を成り立たせている組織、機構とその機能を主として公民的分野で扱い、それらの総合的な成果として社会科の目標を達成する」としている。

今回の地理的分野は都道府県規模の調査で東京都を、歴史的分野では江戸幕府を中心とした歴史という生徒の身近な地域での社会的事象をそれぞれ取り上げた。これら社会的事象は、直接生徒が見たり、体験したりすることのできないものである。そこでどうしても資料をいかに読み取るかということが社会認識の手段になっていく。そのための方法をいかに身に付けるかが問われることとなる。

地理的分野では、直接地理的事象の資料として作成されたものではない資料を地理的事象に結びつけるといった学習課題を、形成的評価を生かした授業作りにより行った。生徒の興味・関心を高めることと、課題解決に必要な視点を身に付けさせることができた。

歴史的分野では、多くの資料の中から、歴史をマトリックス的に見る試みにより、自分が調べようとする歴史的事象と関連付けた資料の選択と、その活用により社会認識を深めるという授業を実施した。生徒の多様な見方や考え方を相互に啓発することができた。

今回の研究で実施した資料活用を重視した学習は、それぞれの分野での成果は着実にあると考えられる。

しかし、課題も多く出た。地理的分野における資料の活用については学習指導要領解説社会編には多くのことが例示されている。その中の一部しか今回は扱うことができなかった。また、歴史的分野については、近現代の日本と世界を扱うことにより、比較的多くの資料を用意することができ、多面的な見方や考え方をさせることができた。しかし、全ての時代、全ての歴史的事象について同じような手法がとれるとは考えられない。それぞれの分野や単元の特質を生かす形で確かな学力に結び付けていくにはまだ多くのことを研究していくことが求められる。

研究の成果を踏まえ、今後も三分野の系統ある学習計画を立て、生徒が着実な学力を身に付けていくよう授業改善を図っていきたい。

平成16年度 教育研究員名簿(社会)

	区市町村名	学 校 名	氏 名
地理的分野分科会	目黒区	第七中学校	小杉 英夫
	足立区	花保中学校	村田 雅也
	葛飾区	奥戸中学校	鈴木 薫
	八王子市	石川中学校	今泉 智英
	昭島市	昭和中学校	並木 茂男
	西東京市	柳沢中学校	竹内 一喜
	世田谷区	烏山中学校	成清 敏治
歴史的分野分科会	杉並区	富士見丘中学校	隅田登志意
	北 区	北中学校	穂田 剛
	練馬区	開進第二中学校	岡部 誠
	あきる野市	五日市中学校	上田 太

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 川島 清美
指導主事 佐々木清恵

平成16年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)〕

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社